

「金融経済論」に講師派遣

本県RC 八学大と教育連携協定

八戸学院大学(小林眞学長)と、本県をエリアとする国際ロータリー第2830地区(成田俊介ガバナー)

は22日、同大で教育連携協定を締結した。9月中旬に始まる秋学期の講座「金融経済論」に、県内のロータリークラブ(RC)会員らを講師として派遣。協定に基づき寄付講座として開講し、講師は自身の専門分野

について、金融経済の視点で講義する。

八学大がRCと協定を結ぶのは初めて。国際ロータリー第2830地区が大学で寄付講座を開講するのは青森大学に続き県内2例目。

ロータリーの奉仕の理念を広げるとともに八学大の教育充実を図り、地域の発展と人材育成に寄与する狙

い。講座は地域共創学部地域共創学科の2年生以上が対象。「ければれ金融経済論」のサブタイトルで、1

回90分で全15回開講する。詳細は今後詰めるが、講師



教育連携協定の協定書を掲げる成田ガバナー(左)と小林学長

は、RC会員の金融機関関係者や、県内企業の経営者などを想定している。

小林学長と成田ガバナーが協定書に署名。小林学長は「県経済を先端で動かす企業の話が聞けることに期待している。地域と連携を深めてという、地方の大学に国が求める姿を実現する一つの形になる」、成田ガバナーは「学生にはリーダーシップの大切さを学んでほしい。とても誇らしく、講座が何年も続くよう頑張っていきたい」と話した。

(岡田圭逸)